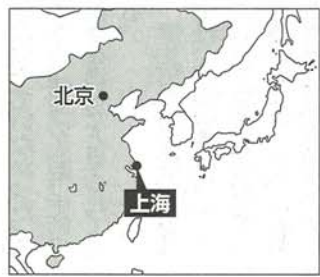




世界で活躍する サムライ技士

中国・上海
齋藤 芳文 氏 ③



上海に来たばかりのころは中国語ができなかったのですが、仕事を終えてからスタッフにレッスンしてもらいました。発音から教えてもらい、技工道具、機械、作業の単語を中国語で書いてもらい、必死に覚ええました。

通訳さんはいましたが、通



JIE DA 歯科製作有限公司に3M社のCAD/CAMLavaが導入。オペレーターの丁旭(右)。僕に上海語をよく教えてくれた今でも仲の良い仲間



2010年上海デンタルショーにて。JIE DA 歯科製作有限公司と3M社の共同ブースで受付をしていた美女たちと記念撮影

家賃高く大規模ラボ少ない

訳に頼らず自分の意思で会話をしたいとの強い思いがありました。仕事の要領を覚え、中国の生活にも慣れ始めてから、週3日、仕事の後に中国語の勉強に通うようになりました。お金もなかったので授業料の安い学校へ3年間通い続けました。仕事が忙しくなると学校に通うのが困難な状況でも時間を捻出して中国語の勉強は続け、トータルで5年くらいは真面目に勉強しました。勉強を諦めずに続けられた原動力は、学校に通い始めて

半年後に先生から勧められて受けた中国語の試験です。初級試験に合格すると勉強意欲がどんどん湧いてきて、1年に1~2回試験を受け、徐々に上達していききました。今では中級試験も高得点で合格し、街では中国人によく間違われるほど上達しちやいました(笑)。中国語ができる日本人歯科技士という一つの目標に近づいていると思えます。

は、中国の中では高いと思います。中国には何千人、何百人のスタッフのいるラボが何社もありますが、上海には大規模ラボは少ないようです。家賃が他地区に比べ格段に高いので、収支バランスを維持するのが大変なのが理由です。規模が小さい分、品質等の管理がしやすく、完全分業制でも分業幅が広く、1人が責任を持たなければならぬ範囲が広くなるというところなどは日本の大手ラボと似ています。平均30~40人規模の歯科



ラボの様子

技工所が多いのではないかと
思えます。

国産品より海外の物が多く使われ、コストも高くなっています。その分、技工料金は中国国内では高い方だと思えます。



ちなみに、政府にきちんと登録している歯科技工所は、上海に100カ所前後しかありません。許可証なしで営業している歯科技工所が少なくないので、そうした歯科技工所が技工料金のダンピングを図るので、とても迷惑しています。

を自分で盛って形態修正するのが当たり前ですが、中国の大手ラボでは分業です。しかし、上海は日本と作業工程が似ている気がします。少なくとも中国の大手ラボほど大きくはないと思います。

日本から来るお客さんが「中国のラボは暗くて汚いイメージがあったけど、上海は違うね」と言うのをよく聞きますが、スタッフの働く環境も上海は良い方だと思えます。使っている工具や材料も、

衛生局は日本以上に検査が厳しいので、許可証のある歯科医院や技工所の衛生管理はしっかりしていると思えます。

上海の街は交通の便が年ごとに良くなるなど確実に変わっています。2013年2月現在、地下鉄は13本通っていますが、13年末には15本になり、20年代には23本になると聞いています。

交通の発展に伴い庶民の生活も豊かになってきていますが、その分、家賃や人件費、生活費もどんどん上がっています。上海は中国大陸の中で一番物価の高い地域だと思えます。

(次号に続く)